

令和7年度学校経営の改革方針

学 校 名	津市立高野尾小学校	校長名	伊藤 暢浩
児童・生徒数	53名	学級数	6学級
		教職員数	22名

1 めざす学校像

学校・家庭・地域が協働し、子どもを守り育てる地域立の学校

2 現状と課題

本校の児童は、全体的に明るく素直で落ち着いており、勤労生産的な活動にも熱心に取り組む。基本的な生活習慣や規範意識も身に付いている児童が多い。保護者や地域住民の学校教育への関心は高く、年間をとおして様々な場面で大きな支援を得ている。学校支援本部との協働による学校を拠点としたまちづくりは18年目となり、保護者及び地域住民と一体となった教育活動の推進により、いろいろな活動を体験し、挑戦しようとする意欲・態度が育っている。

しかし、少人数のため人間関係が固定化し、多様な考え方に会える機会が少ない。その結果、大人に依存してしまう傾向があり、自ら判断し行動に移す力を身に付けさせる必要がある。

3 重点目標

- (1) 自立（自律）した社会人になるための基礎をつくる。
- (2) 保護者や地域住民と学校経営の改革方針を共有し、地域ぐるみで子どもを育てる。
- (3) 豊里中学校区の保幼小中の連携を図り、教職員の力量を高める。
- (4) 人権尊重の精神を基調にした心の教育を充実する。
- (5) 教職員が健康で安全に働けるよう、職場環境改善や勤務時間縮減に取り組む。

4 具体的な行動計画

- (1) 自立（自律）した社会人になるための基礎をつくる。
 - ア 少人数及び複式学級を生かした、協働的な学習における自己調整学習を基に授業研究を深める。
 - イ ICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。
 - ウ 朝の学習、家庭学習、自己調整学習の取組により、基礎学力の定着を図る。
 - エ 学校支援本部と協働し、体験したことを学習や生活に活かす力の定着を育成する。
 - オ 朝の読書、親子読書、魅力的な図書館づくり等の取組を進め、豊かな情操を育む。
 - カ ノーチャイムの取組を継続し、自らを律し、自主的に次の行動に移せる力を育成する。
- (2) 保護者や地域住民と学校経営の改革方針を共有し、地域ぐるみで子どもを育てる。
 - ア 自治会及び各種団体等との連携をさらに深め、学習支援や環境整備等のより一層の充実を図る。
 - イ 地域連携によるキャリア教育の実践を保護者や地域住民へ発信し、学校教育への理解を深める。
 - ウ 見守り隊及び青少年育成協議会等との連携を強化し、児童に係る事件・事故ゼロを維持する。
 - エ ふれあい運動会、餅つき集会、音楽鑑賞会等を開催し、学校を拠点としたまちづくりを進める。
 - オ 情報の発信・収集を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを一層進める。
- (3) 豊里中学校区の保幼小中の連携を図り、教職員の力量を高める。

日常的な情報共有と連携に努め、中学校区の教職員全員で子どもを育てていく体制を強化する。
- (4) 人権尊重の精神を基調にした心の教育を充実する。
 - ア 自尊感情を育み、個性を認め合い自分や友だちを大切にする子どもを育てる。
 - イ 縦割り班活動を多く行い、仲間を信頼し、ともに高め合う集団づくりに努める。
- (5) 教職員が健康で安全に働けるよう、職場環境改善や勤務時間縮減に取り組む。
 - ア 常に業務の効率化と活性化を図る。
 - イ 一人あたりの月平均労働時間外労働：30時間以下・年360時間超時間外勤務者：0人・月45時間超時間外労働者延べ人数：0人・定時退校日定時退校者：90%・放課後開催会議の60分以内終了率：80%を目標に取り組む。